

1. 総括

R3年度は、ウィズコロナの一年だった。感染予防の対策を行いながら、個別に企業見学や実習を行った。専門的知識をもつ経験豊かなプロ講師によるオンラインでの学習会を行った。感染者状況を鑑みながら、通所日や時間を調整し、途切れのない就労訓練プログラムを提供することが出来た。

企業や障害者就業・生活支援センター、医療機関、ご家族、グループホーム世話人等と連携し、昨年度就労した方の定着支援を行った。就職先への定期訪問や、ご本人との面談、就職後も参加できる余暇（ラーメンクラブ、読書会、カフェクラブ）の開催など、就労定着支援とも連携し支援を行った。

コロナ禍でコミュニケーションが難しいなかでも、利用者が、新たな価値観をみつけ、自分の人生を選び、苦手なところは周りの力を借りて生活していくことの喜びや安らぎが生まれた。

2. 年間利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	21	22	22	20	20	20	21	20	20	20	14	22	242
延利用者数	80	78	80	75	74	76	101	106	73	50	37	57	887
1日平均利用者数	3.8	3.5	3.6	3.7	3.7	3.8	4.8	5.3	3.6	2.5	2.6	2.5	3.6

※主な欠席理由：体調不良・精神不安定・家事都合

3. 担当職員

サービス管理責任者：神戸真弓

職業指導員：西川由利子

就労支援員：宇賀神由子

生活支援員：桐生みち子

4. 成果と課題

(1) 就労支援

【成果】

・企業見学では、実際に働いている人たちの現場を見学し、仕事のやり方や環境も体験することでリアリティのある就労イメージを持つことができた。また、経営者や担当者からの話を聞き、好きな仕事とできる仕事の違いを学ぶことができた。

・企業見学を通して、企業側への理解啓発をする事で実習受け入れ可能企業を65か所まで増やすことができた。

（東京インテリア配送センター、東京インテリア第二本部、東京インテリア宇都宮店、東京インテリアインターパーク店、ヤマト運輸(株)、ユニクロ宇都宮店、(有)真京精機、ビバホーム鹿沼店、ヨークベニマル鹿沼睦町店、特別養護老人ホームハーモニー、セントラルカッティング(株)、ウッディパネル(株)、(株)JSPモールディング、栃木トヨタ(株)、(株)ナカニシ、菓子工房松屋、シンフォニーあわの、鹿沼花の風、(有)マーサース、(株)フォウルビ、河淳(株)、ゼブラ(株)、(株)シーボン、(株)共立、こいしや食品(株)、(株)こぶし急便、(株)ヤオハンフードセンター、(株)やさしい手、カワチ薬品千渡店、ランスタッド(株)テクノセンター、温泉パン(株)、さわやか鹿沼館、(株)薄井工務店、(株)栃緬、(株)アクテ

ィチャレンジ、(有)アップライジング、上陽工業(株)、オリックスレンタカー栃木(株)、北関東物流(株)、大谷いちごクラブ、植木鋼材(株)、(株)イシカワ、鹿沼市立図書館、サンプラスチック(株)、(株)総研、(株)ジャパンエコロジーシンキング、(有)米菓工房和、バンダイナムコウィル鹿沼、(株)ヒーロー、フライングガーデンインターパーク店、(株)若山商店、ガーデンクリエイイト(株)、(株)生晃、のざわさんち、(株)真岡製作所、月とスパイス、軍鶏屋、(株)白龍堂、飛行船、すす新鹿沼駅前店、大関種苗園、フリースタイル、板荷無量壮、ゼウスカークリーン、マルハン鹿沼店)順不同

- ・施設内の実習では、本人の特性がわかり、本人に合った作業に取り組んでもらうことで自己肯定感を高めることができた。治具や指示書、スケジュールの提示をすることで、自立して作業に取り組めるようになった。

- ・企業実習ではCSAWやCSCや、WSSPなどを活用し、具体的な評価をすることで、自分にはどのような職業がっているのかを確認できた。

- ・職場体験実習では、地域の人たちに働く姿を見てもらい、認めてもらい、交流を重ねることで自信がつき、企業実習へ意欲的になった。

- ・障害者就業・生活支援センターと連携し定着支援を行った。

- ・学習会として、見学の振り返りを行い、自己評価・他者評価を確認することで自信や自己理解のプロセスにつながるきっかけになった。また、利用者さんが日頃感じている悩みや困りごとの意見交換ができ、互いに励まし合いながら向上することができた。

- ・定期的に、学習会を開催することができた。オンラインでも開催できるようになった。(アドラー心理学、マインドフルネス、CLSP、グッドヘルス講座、ストレッチ講座)就労を続けるために必要な感情のコントロールの仕方や、食事と健康について学ぶことができた。オンラインでの開催が可能になり、遠方の講師にお願いしやすくなった。

【課題】

- ・コロナ禍により、企業見学会の開催ができなかった。(個別対応で実施した)

- ・企業見学ができないため、実習先の新規開拓ができなかった。

(2) 生活支援

【成果】

- ・余暇活動を通して仲間とのコミュニケーションを学んだ。

- ・余暇活動を通して、考え方のちがいや、自分の強みを知ることができた。

- ・OBも対象にした余暇活動を行い、交流を通して就労への意欲喚起を促すことができた。

- ・個別の相談には随時対応し、解決方法を一緒に考え助言することで、信頼関係を築き、自分一人で抱え込まず相談できるようになった。

- ・GHの職員と情報を共有し、同じ目標に向かって支援することができた。

(3) 入口強化

- ・特別支援学校、相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター、発達障害者支援センター、鹿沼市自立支援協議会、鹿沼自動車教習所等との連携で利用者を紹介してもらった。

- ・発達障害者支援セミナー(栃木県から依頼)の講師を務め、支援事例の報告をしたことで、相談支援センターからの紹介が増えた。

- ・CCV学園や、CCVEpicからつながる利用者が増えた。

(4) 職員会議・支援会議

○職員会議

- ・毎月1回開催

- ・研修報告を通して、職員のスキルアップを図った

○支援会議

- ・月に1回開催

(5) 研修会

- ・意思決定支援と虐待防止に関する研修会（西川）
- ・栃木県令和3年度就労移行強化事業コンサル（西川、神戸）
- ・新任職員研修（宇賀神ゆ）
- ・精神・発達障害者職場定着サポートスキルアップ研修（宇賀神ゆ）
- ・中小企業家同友会例会（西川・桐生）
- ・虐待防止権利擁護研修（全職員）
- ・知的障害のない神経発達症者の特性理解（全職員）